

2019年度

一般社団法人 埼玉県歯科技工士会

歯科技工士生涯研修事業(基本研修課程)



- 講師: 陸 誠 先生 (株式会社コアデンタルラボ横浜 代表取締役社長)  
くが まこと
- 演 題: 「技工サイドからのデジタル化の現状と未来」【教養課程】  
「歯科技工におけるデジタルは我々をどこに連れて行くのか」【専門課程】
- 日 時: 2020年3月22日(日)13:00～16:00 (受付開始12:30)
- 会 場: 埼玉歯科技工士専門学校 (講義室 3階)  
埼玉県さいたま市見沼区東大宮1-12-35 (最寄駅: JR東大宮駅 徒歩約6分・下記地図参照)
- 参加費: 会員・学生・ともに無 料(会費充当)  
未入会者は2,000円 (当日徴収をお願いします)  
※全ての方が当日申込みでご参加できます
- 定 員: 60名 (会員は歯科技工士生涯研修カードを必ずご持参下さい)  
※定員数に達した際は立ち見をご了承下さい



主催: 一般社団法人 埼玉県歯科技工士会

主催  公益社団法人 日本歯科技工士会

開催コード: 95-11501 (基本研修課程5単位)

後援  厚生労働省

## 講師：陸 誠 先生



### 【所属・認定技士等】

日本歯科技工士会認定講師  
日本補綴歯科学会会員  
日本歯科審美学会会員  
日本デジタル歯科学会理事  
日本歯科理工学会会員  
日本口腔インプラント学会会員

### 【略 歴】

1978年 大阪歯科学院専門学校卒業  
同年 (株)クワタパindent勤務  
1983年 (株)コアデンタルラボ横浜勤務  
1988年 日本歯科技工士会認定講師  
2006年 (株)コアデンタルラボ横浜 専務取締役  
2010年 (株)コアデンタルラボ横浜 代表取締役副社長  
2011年 (株)コアデンタルラボ横浜 代表取締役社長  
現在に至る

### 「技工サイドからのデジタル化の現状と未来」 (教養課程)

歯科業界におけるデジタル化の進歩は、補綴物の製作方法も大きく変化させてきており、歯科技工領域にも大きな影響を与えてきている。現在多くのメーカーより歯科用CAD/CAMや3Dプリンタのシステムが発売され、従来の手作業よりも良いものができ、さらに手作業では加工できなかった材料が利用でき、品質の均一化と作業環境の改善など多くの利点があり、もはや技工作業にはなくてはならない存在になったといっても過言ではない。

インプラントシステムの普及に伴って、アバットメントへの利用にも注目が集まり、理想的な歯肉貫通部の形態が得られるカスタムアバットメントや、インプラントブリッジのフレームワーク、又、天然支台においては、ジルコニアコーピングを利用したオールセラミックスへの臨床応用もかなり臨床に根付いてきている。

近年においては、高透過性ジルコニアやグラデーションタイプのジルコニアディスクをはじめ、各種焼結前の着色剤の活用によって、ジルコニア単体でのフルジルコニア(モノリシック)クラウンの臨床応用も多くなり、かなり審美領域にまで利用できるレベルへとようになってきている。

### 「歯科技工におけるデジタルは我々をどこに連れて行くのか」 (専門課程)

近年は、口腔内スキャナー(I.O.S.)からのダイレクトな口腔内のデータからの補綴装置製作方法に変わろうとしてきている。しかし、まだまだ各メーカーで統一された規格ではなく、互換性も少ない事から、データの取り扱いはまだ複雑なのが現状であり、今後このあたりの整理が必要となってくる。

現在の歯科界の機械化(デジタル化)の環境は、デジタルの各機器やソフトを点とすると、点がやっと点線になってきた程度で、今後、デジタルにて一直線で一気に通貫となる事は間違いない。

「我々がどのように機械を使い、何をしたいか」という事をしっかりと考えると共に「今後、我々の手作業として残り、付加価値の高い作業はいついどのあたりか」ということを意識し、前向きに機械化(デジタル化)へ向き合っていかなければならない。

今後、歯科技工はコンピューター化(AI)により、機械化はどのように進んで行くのであろうか?また、手作業として残る部分はどこなのか、インプラントに関わる作業だけではなく、現状のデジタル化されていく技工の流れをくみながら今私共の環境の中でどのような変化が起こっており、どのように今後の方向性を考えているかなど、皆さんと共に考えられればと思っている。

